

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール研究報告

女性と化粧の調査

2010年2月

情報学部広報学科

榎村 紗和

目 次

第 1 章	研究の概要		
1 . 1	研究の背景と目的	2
1 . 2	研究の方法	2
(1)	進捗経緯	2
(2)	調査の概要		
1 . 3	成果の概要	4
(1)	主な成果		
(2)	その他の成果		
第 2 章	研究の成果		
2 . 1	調査回答者の概要	7
2 . 2	学生の化粧状況	7
2 . 3	化粧好きの考え方	15
第 3 章	まとめと今後の課題	21
参考文献		22
単純集計表		23

第1章 研究の概要

1.1 研究の概要と目的

現在、日本人女性は世界中で一番化粧品を消費すると言われている。今や小・中学生の児童向けの雑誌にも化粧特集が組まれているほどだ。もはや化粧は大人だけのものではない。化粧品の市場規模は二兆円に達し、世界がこの最も熱心な消費者を目がけて、さまざまな化粧品を投入している。透きとおるような肌に仕上がるファンデーションや、塗るだけでしわが消えるクリーム、人形のようにフサフサのまつ毛になるマスカラ。もはや、「化粧」とは身だしなみの域をはるかに超えた、新たな趣味として確立している。

美意識が大きく変動したのは90年代。身体そのものに手を加える化粧への関心が高まった。茶髪、ガングロ、目力、プチ整形といった流行語も飛び出し、外見重視の風潮が強まる中、化粧の存在がますます存在感を増していく。80年代以降、女性たちはより主体的な自己表現を求めるようになり、ファッションという記号をまとうことで自己を表現しようとした。そして、ファッションでの他者との差別化の果てに、多くの女性たちが選び採ったのが、「化粧」という自己表現の手段だったのだ。一般的な身体加工は、他者のため、社会への配慮のためにするという理由も根強く存在するが、自己満足のため、自分らしくあるために行われることが非常に多くなっている。化粧が自己表現の手段として明確に意識されたのは1990年代に突入してからであった。身だしなみではなく、あるいは美しくなるための単なる手段でもなく、それ自体が自己目的化した化粧となった。

「身だしなみ」から「自己表現」へと変換していった「化粧」。それは、美しくなりたいがためだけの行為という単純なものではない。何が女性を化粧に没頭させるのか。様々な側面から「化粧」という行為を分析することによって、化粧の多様化や女性の活力などにどう影響しているかを知ることが出来る。社会に浸透している「化粧」を見直すことは、女性である自分を見直すことにも繋がる。化粧がどんな効果をもたらし、女性の心理にどのような影響を及ぼしているのか。また、どのような人が、化粧に夢中になり、重要だと感じているのか。化粧を様々な観点から分析し、女性にとっての「化粧」とは一体何なのかを検証したい。

1.2 研究の方法

(1) 進捗経緯

4～5月 調査テーマ討論

- 6月 調査テーマ決定・調査テーマ具体化
- 7～8月 ゼミ討論・調査票作成
- 9月 最終討論
- 10月 調査票完成・学内での調査実施・回収・集計
- 11月 単純集計結果報告
- 12～3月 報告書作成

(2) 調査の概要

a. 調査の意図

- ・ 週に何日ぐらい化粧をするのか
- ・ 化粧をする理由は何なのか
- ・ 化粧に対する感じ方
- ・ 性格と化粧はどんな関係があるのか

b. 調査対象層

文教大学湘南キャンパス学生(1～4年生)

c. 調査方法

授業時間内に配布・回収

d. 主な質問項目

- | | |
|-----------|----------------|
| ・化粧の頻度 | ・化粧の度合 |
| ・化粧の影響 | ・購読雑誌 |
| ・化粧をする理由 | ・化粧に対する感じ方 |
| ・見た目について | ・性格について |
| ・競争社会について | ・部活、サークルの所属の有無 |
| ・アルバイト | ・恋人の有無 |
| ・血液型 | ・学年 |

e. 配布(依頼)回収数

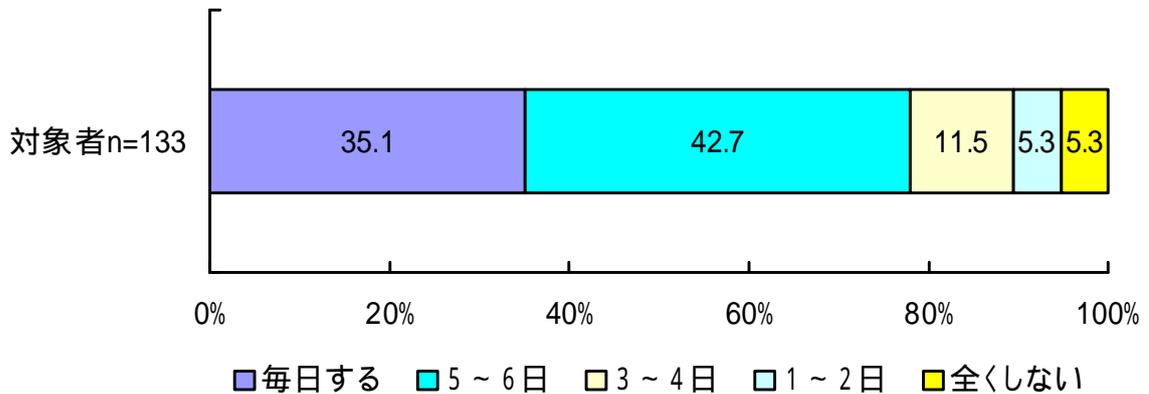
コンピュータと通信	17	消費者行動論	16	サウンドデザイン	15
新聞論	9	観光マーケティング論	28	佐久間ゼミ	7
日吉ゼミ	6	藤掛ゼミ	14	その他学内	20
計 配布数	132	無効票	0		

1.3 成果の概要

(1) 主な成果

(a) 化粧状況

図 1 - 3 - 1 大学生の1週間の化粧状況

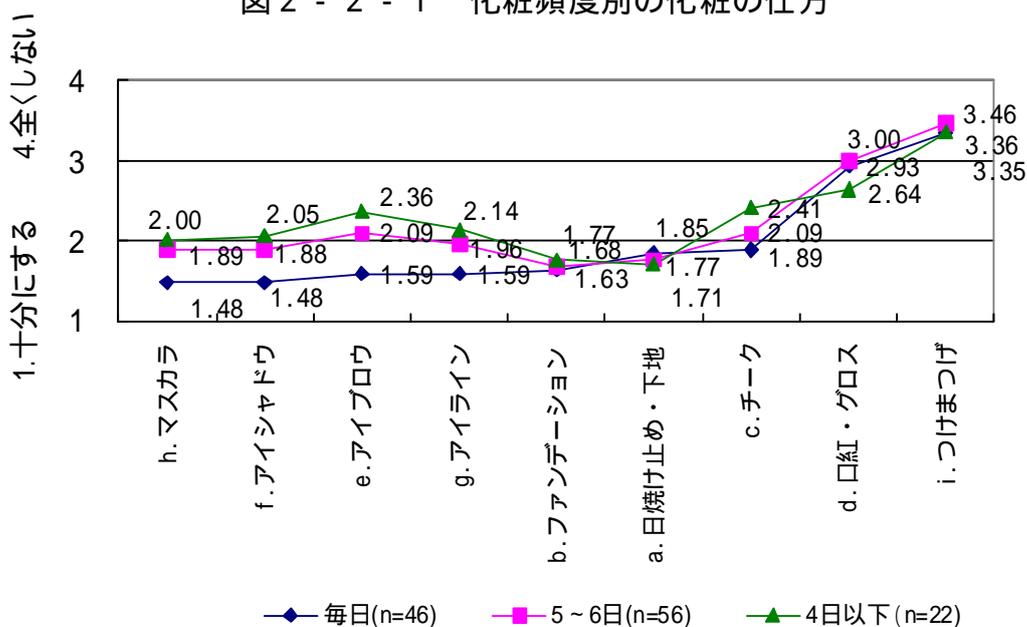


大学生の1週間の化粧状況を図1-3-1に示す。

この結果、「毎日する」と答えた学生は全体の約35%、続いて「5～6日する」と答えたのは約48%で最も多かった。女子学生全体の9割以上が、なんらかの化粧をしていることが分かった。

(b) 化粧頻度と化粧の仕方

図 2 - 2 - 1 化粧頻度別の化粧の仕方



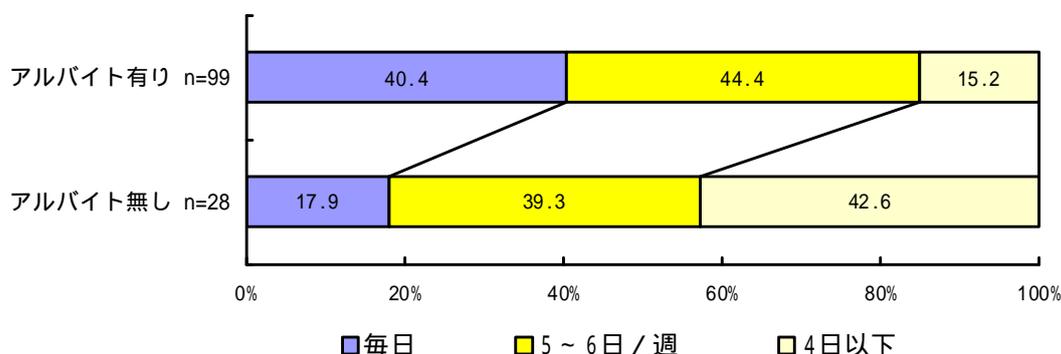
上記の化粧状況から化粧の頻度別に「毎日」、「5～6日」、「4日以下」の3つのグループを作り、化粧の仕方にどのような違いが出るかを調べた。結果を図2-2-1に示す。なお化粧の仕方は、「1.十分に作る」～「4.全くしない」までの4段階で回答を得ており、この選択肢番号の各グループの平均値を求めて比較している。グラフは「毎日」のグループの値が小さい(よくする)順に左から配列されている。

大きい傾向としては「毎日」化粧するグループがほとんどの項目で値が小さく、特に「h.マスカラ」や「f.アイシャドウ」など、目に十分な化粧をする傾向が強く見られる。目が特に重要な化粧要素となっていることが分かる。

(c) アルバイトと化粧頻度

次に、アルバイトと化粧頻度にはどのような関係があるのか。結果を図1-3-3に示す。図から、化粧を「アルバイト有り」のグループは「毎日」化粧をしているのが40%、「5～6日/週」が44%、「4日以下」が15%である。これに対して「アルバイト無し」

図1-3-3 アルバイトと化粧頻度(2乗:p=0.004)



のグループは「毎日」が18%、「5～6日/週」が39%、「4日以下」が43%である。アルバイトをしているグループは、有意に化粧頻度が高い。

アルバイト以外に、部活・サークル活動と化粧頻度の関係も調べているが、この場合は活動の度合いが高いグループが化粧頻度が高いことが分かった。双方から見ると、人と接する機会が多い人ほど、化粧頻度が高くなることが分かる。

(2) その他の成果

- ・化粧は、誰によく見られるためにするか、という問で「異性によく見られるため」と

「同性によく見られるため」で、どちらも数値が近いことから、異性・同性に関係なく、化粧をすることによってよく見られたいという願望があることが分かった。

・「化粧は、自己満足である」で、「そう思う」と回答したのが約43%、「ややそう思う」と回答したのが28%で、7割以上の学生が、化粧は自己満足であると感じていることが分かった。

[謝辞]

本研究においては、調査の実施に際して多くの学生諸氏から回答をいただいた。この調査協力に対しては心から御礼を申し上げる次第である。調査票を作成するまでの過程では、ゼミのメンバーをはじめとして、多くの方から示唆を頂いた。また研究の実施全般にたいしては、指導教授のハッ橋先生から様々な示唆を頂いた。これらの皆さんに対して、改めて謝意を表します。

第2章 研究の成果

2.1 調査回答者の概要

文教大学湘南校舎の女子学生のみ回答を求めたため、複数の授業で回答をもらった。「コンピュータと通信」、「サウンドデザイン」、「新聞論」、「消費者行動論」、「観光マーケティング論」、「藤掛ゼミ」、「佐久間ゼミ」、「日吉ゼミ」で、調査票を回答し、その場で回答してもらい、回収した。

なお回答標本は無作為抽出で作成してはいないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答の分布を、表2-1-1で確認しておく。表2-1-1の学年別の分布では、2年生が最も多く約42%、次いで、3年生約39%、1年生約10%、4年生が約9%という結果になっている。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかし、クロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響が限定されると考えられる。

表2-1-1 回答者と母集団の比較

	1年	2年	3年	4年	計
回答者	10.2 (13)	42.2 (54)	39.1 (50)	8.6 (11)	100.0 (128)
湘南キャンパス 女子学生	29.2 (485)	29.8 (495)	19.7 (328)	21.3 (353)	100.0 (1661)

(注)母集団は湘南キャンパス2009.09末時点である。

2.2 学生の化粧状況

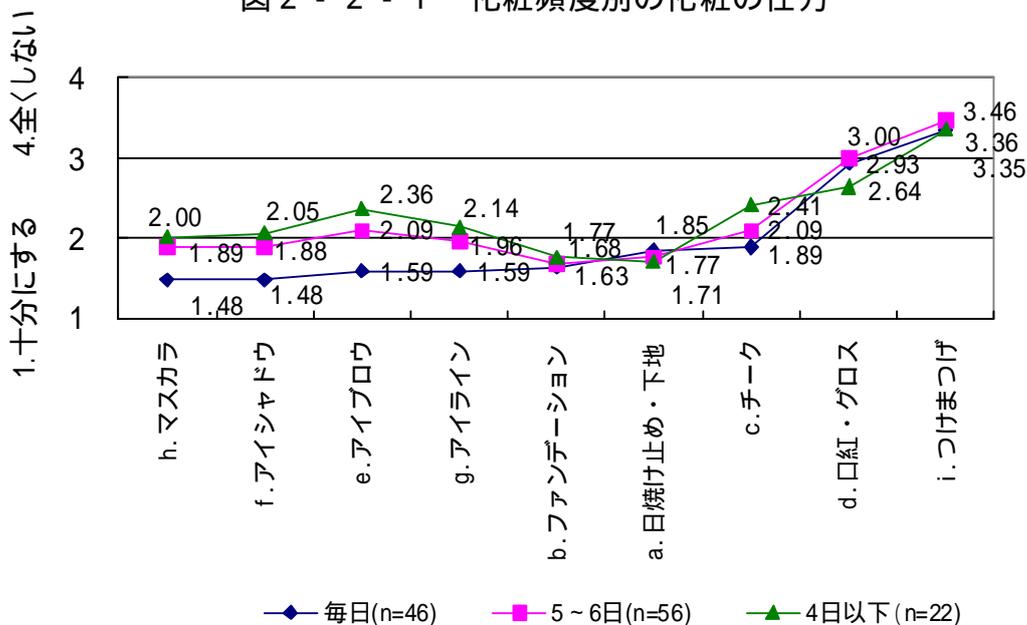
(1) 化粧頻度と化粧の仕方

1週間の化粧の日数を質問しており、「毎日」、「5～6日」、「4日以下」の3つの化粧頻度のグループを作り、化粧の仕方にどのような違いが出るかを集計した。化粧頻度によって、化粧の仕方に違いはあるのだろうか。集計結果を図2-2-1に示す。なお化粧の仕方は、「1.十分にする」～「4.全くしない」までの4段階で回答を得ており、各グループの平均値を求めて比較している。グラフは「毎日」のグループの値が小さい(よくする)順に左から配列されている。

大きい傾向としては「毎日」化粧するグループがほとんどの項目で値が小さく、特に「h.マスカラ」や「f.アイシャドウ」など、目に十分な化粧をする傾向が強く見られた。

目が特に重要な化粧要素となっていることが分かる。また「d.口紅・グロス」の項目については、「4日以下」グループのほうが数値が高く、顔全体的に化粧をすることはないが、口紅やグロスで必要最低限の化粧はする傾向があることがうかがえる。

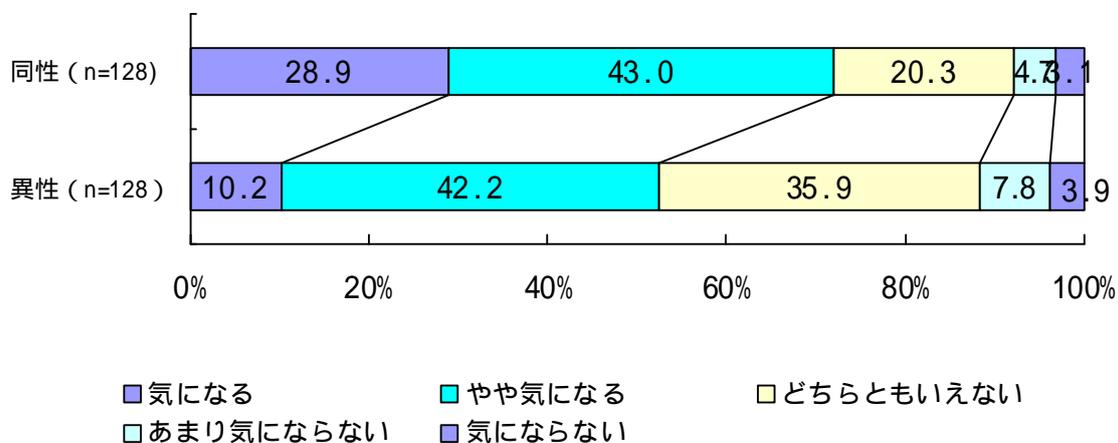
図 2 - 2 - 1 化粧頻度別の化粧の仕方



(2) 気になる相手の性差

他者の目をどのように気にするかが、化粧の仕方と関係があることが想定される。そこで「異性からどう思われているか気になるか」、「同性からどう思われているか気になるか」の調査結果を図 2 - 2 - 2 に示す。

図 2 - 2 - 2 気になる相手の性差

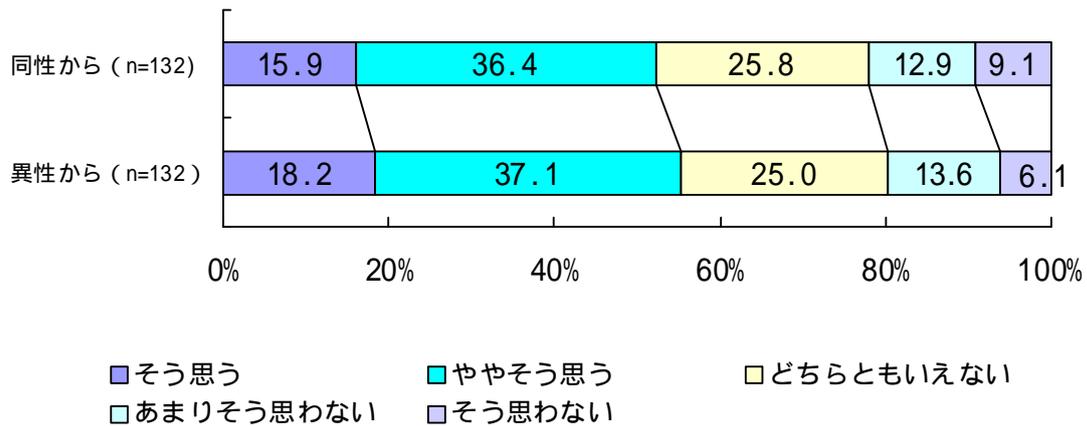


これを見ると、異性よりも同性の目が気になると答えている人が多いことが分かる。「気になる」、「やや気になる」の両方で見ると、同性の場合には70%強が該当し、異性の場合には50%強にとどまっている。これは意外な結果である。

(3) 化粧理由としての性差

それでは化粧は「同性によくみられるため」にする傾向があるのだろうか。ここでは化粧の理由として、「同性によく見られるために化粧するのか」、「異性によく見られるために化粧するのか」について、調査では調べている。その結果を図2-2-3に示す。このグラフによると、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した比率の合計は、「同性によく見られるために化粧するのか」の場合が約52%、「異性によく見られるために化粧するのか」では55%であり、双方ではほとんど差はない。両方とも同様な理由となっている。

図 2 - 2 - 3 よく見られるために化粧する対象



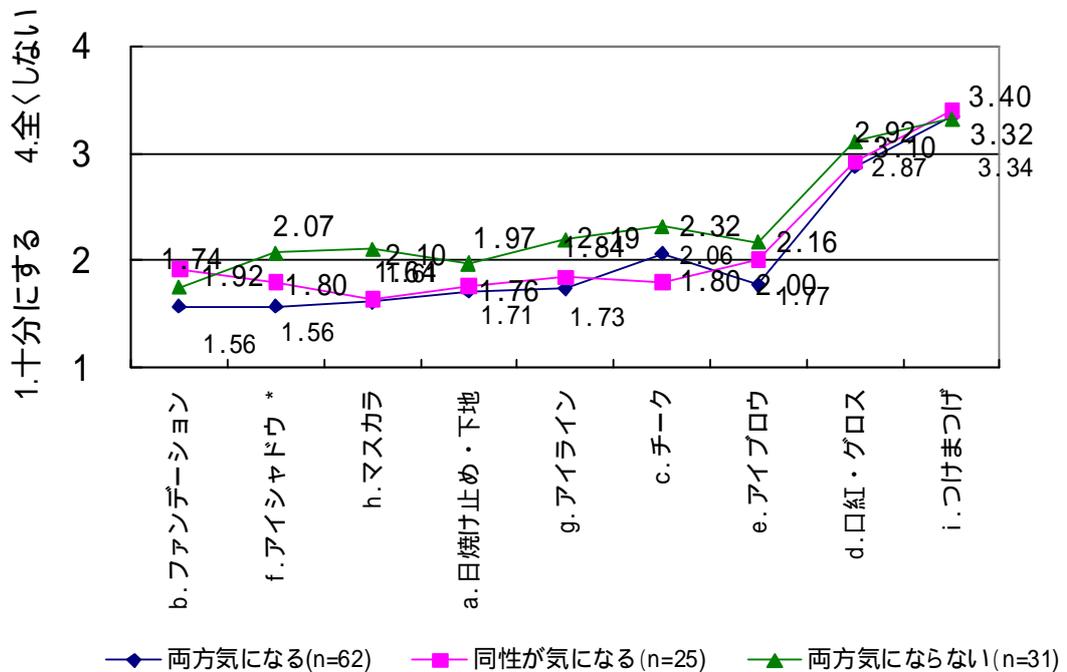
(4) 異性意識と同性意識の化粧の違い

では、「異性によくみられるため」にする化粧と「同性によくみられるため」にする化粧にはどのような違いが見られるのだろうか。

まず図2-2-2で「気になる」、「やや気になる」を「気になる」として、その他を気にならないとする。そこで次のグループの数を求めると、「同性も異性も同様に気になる」64名、「同性だけが気になる」28名、「異性だけが気になる」3名、「両方気にならない」33名であった。「異性だけが気になる」は少ないため、これを除外し、3グループで集計を行った。

結果を示したのが図 2 - 2 - 4 である。

図 2 - 2 - 4 気になる相手と化粧の仕方



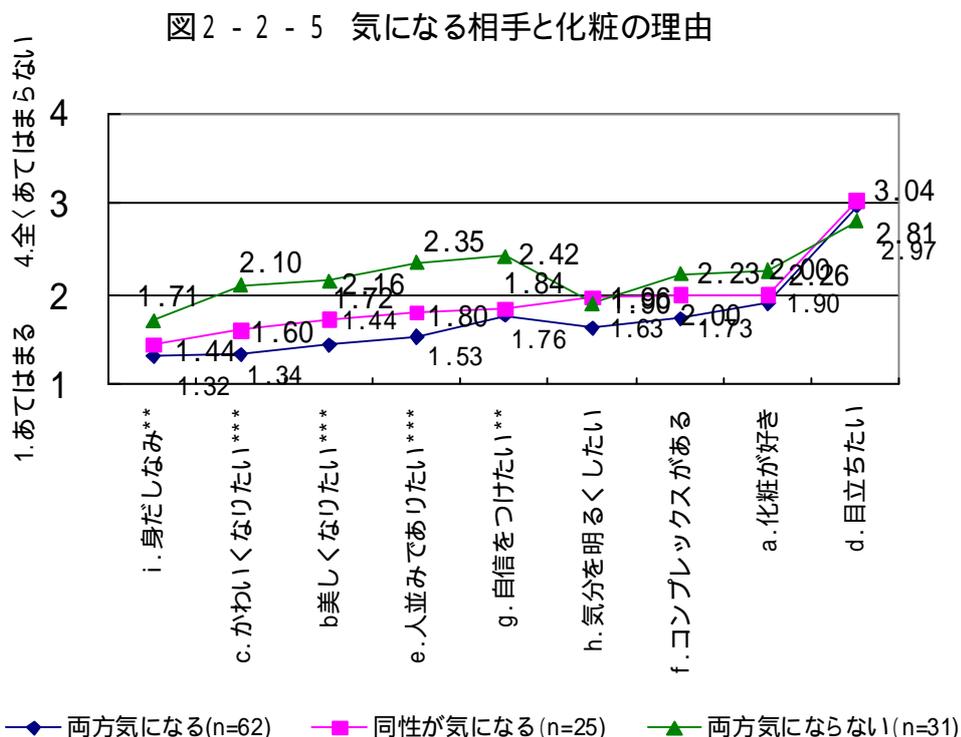
同図を見ると次の点が理解できる。

- ・「両方気にならないグループ」は全般に化粧の度合が弱いのが、ファンデーションはしっかりする傾向にある。
- ・「両方気になるグループ」は、全般にどの項目でもよく化粧をする 傾向にある。
- ・「同性が気になるグループ」は、「両方気になるグループ」よりどの化粧でも若干する度合が低いが、チークだけは強い点に特徴がある。
- ・「g.アイライン」の項目については、数値がほとんど同じことから、どのグループも、化粧をする上でアイラインを重視する傾向があることが分かる。

次に同じグループ分類を使って、化粧の理由を調べた結果を図 2 - 2 - 5 に示す。同図から次の点を読みとることが出来る。

- ・化粧の理由の強さという点では、全般には、両方気になる > 同性が気になる > 両方とも気にならない の順である。
- ・同性が気になるグループは、「身だしなみ」、「自信をつけたい」は両方気になるグループ

と同程度であるが、他は弱い。



結局、「異性よりも同性が気になる」という人達は、化粧の種類と程度は「両方気になる」ひとと同様であるが、理由の点では派手な化粧をするよりも、「身だしなみ」と「自信をつけたい」を強く感じている人達であることが分かる。

(5) 化粧に影響を与えた人と化粧の仕方

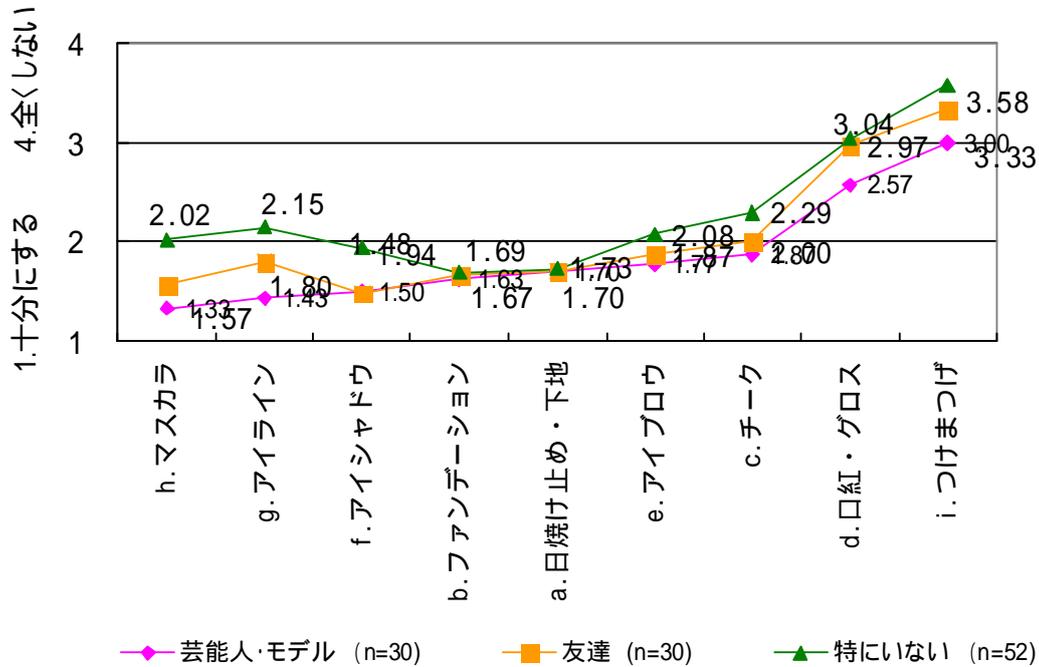
では次に、誰から「化粧の影響を受けているか」によっては、化粧の仕方などは変わってくるだろうか。この調査では、誰から化粧の影響を受けたかを聞いている。その結果を示したのが、図2 - 2 - 6である。

化粧の影響を誰から受けたか、「友達」と「芸能人・モデル」と「特にいない」グループ3つで集計をした。特に差が見られたのは、「f.アイシャドウ」、「h.マスカラ」、「g.アイライン」で目を重点的に化粧する傾向が見られ、あとは「d.口紅・グロス」で、いずれも「芸能人・モデル」に影響を受けているグループは最もが十分にしている、という結果である。「友達」から影響を受けた人もそれに似ているが、「h.マスカラ」や「g.アイライン」が少し弱い点が特徴である。

また「b.ファンデーション」、「a.日焼け止め・下地」は影響を受けた人物に限らず、共

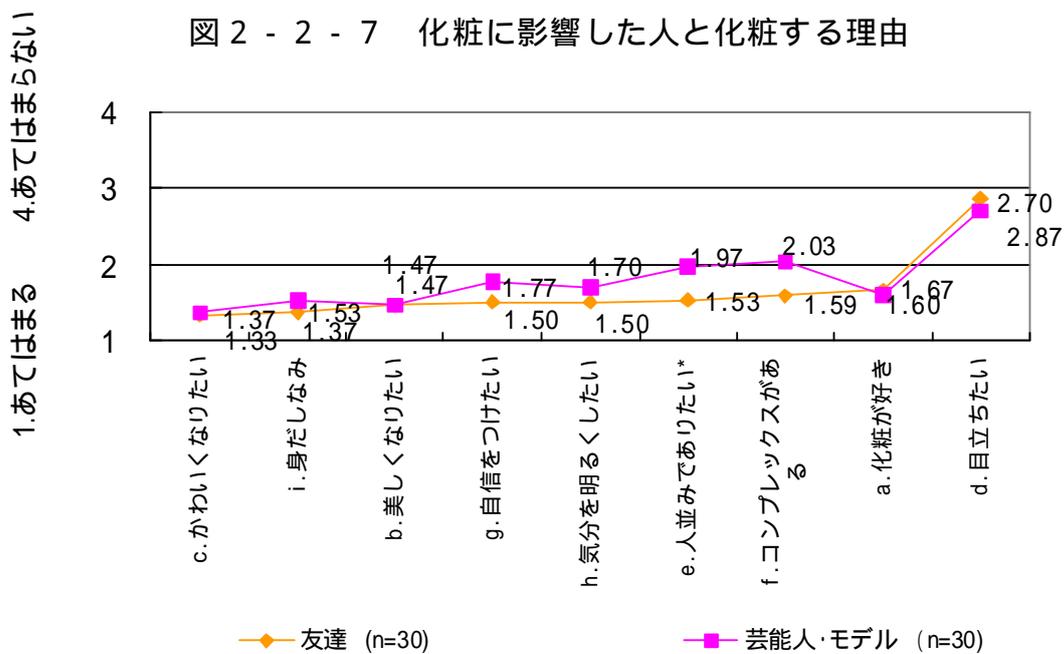
通的に十分にする傾向が強いことが分かる。これは、化粧の最も基本部分なので、差別化が難しいため、影響を受けた人物などはあまり関係ないことが考えられる。

図 2 - 2 - 6 化粧に影響する人と化粧の仕方



(6) 化粧に影響した人と化粧する理由

図 2 - 2 - 7 化粧に影響した人と化粧する理由



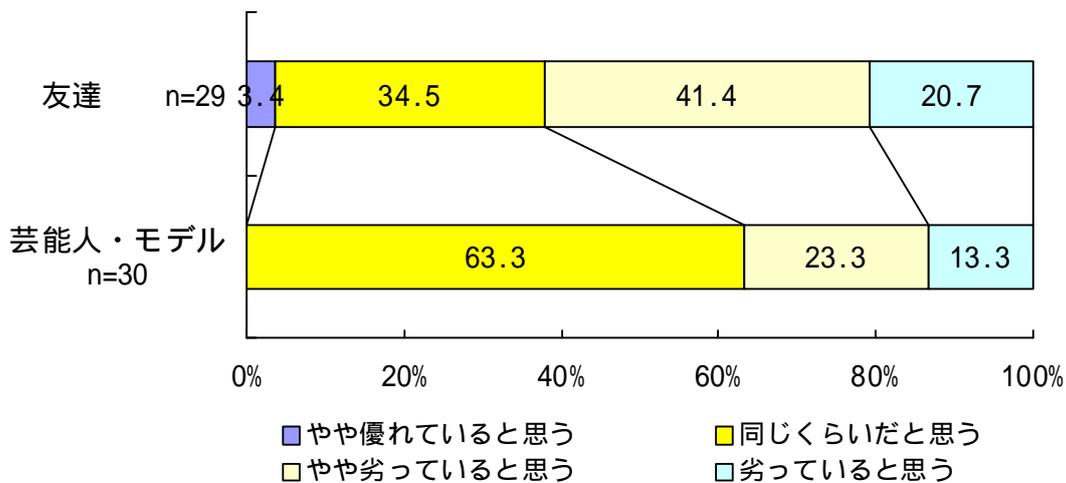
次に、影響を受けたグループが「友達」と「芸能人・モデル」で、化粧する理由にはどのような違いがみられるのかを集計し、図2 - 2 - 7に示す。

図から、「友達」から影響を受けているグループのほうが、「i.身だしなみ」、「g.自信をつけたい」、「h.気分を明るくしたい」、「e.人並みでありたい」、「f.コンプレックスがある」の項目を強く感じていることが分かった。基本的にどの項目も「友達」グループが強く、「c.かわいくなりたい」、「b.美しくなりたい」、「a.化粧が好き」の3項目についてはグループによって大きな差はみられなかった。

(7) 化粧に影響した人と自分の容姿

(6)で、「友達」グループは「e.人並みでありたい」、「f.コンプレックスがある」と感じている傾向が強いことから、自分の容姿の評価については関連して言えることはあるのだろうか。集計したのが図2 - 2 - 8である。

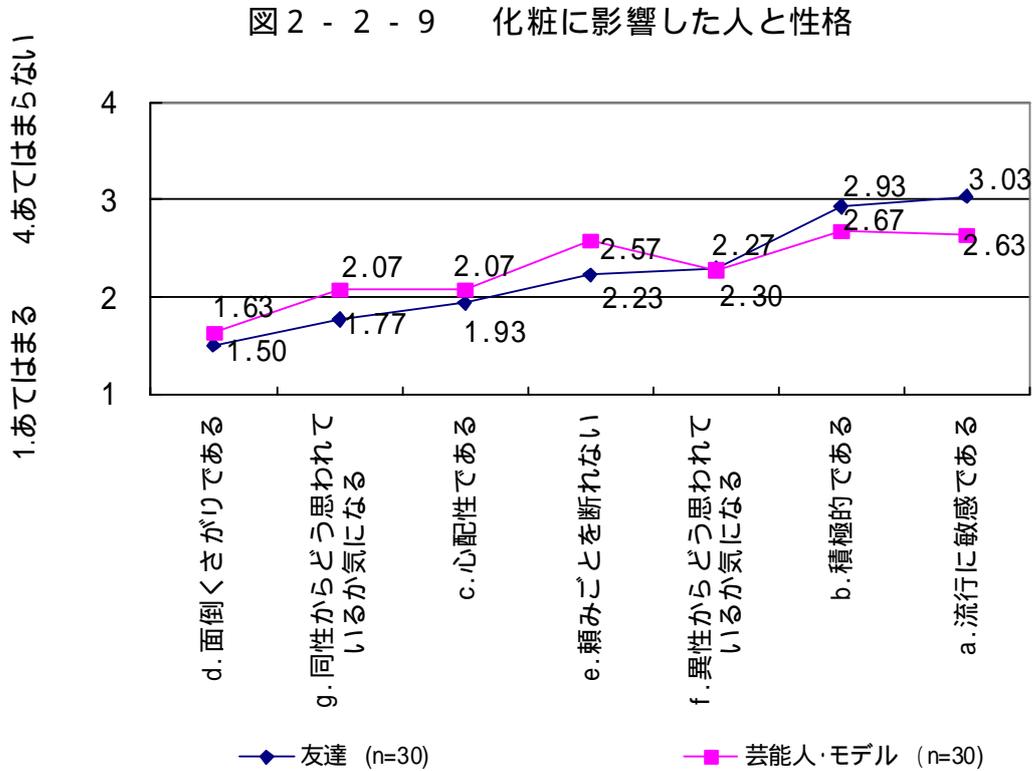
図2 - 2 - 8 化粧に影響する人と自分の容姿の評価



図から、「友達」グループが「やや劣っていると思う」と回答したのが約41%、「劣っていると思う」と回答したのが約21%で、合わせて約62%になった。対して、「芸能人・モデル」グループは、「同じくらいだと思う」の回答が一番多く、約63%だった。「やや劣っていると思う」、「劣っていると思う」が合わせて約37%で、「友達」グループの約2分の1の結果になった。このことから、「友達」グループのほうが、自分の容姿に自信がないことが分かった。

(8) 化粧品に影響した人と性格

次に「友達」グループと「芸能人・モデル」グループで、性格に違いはあるのだろうか。集計結果が図2-2-9である。



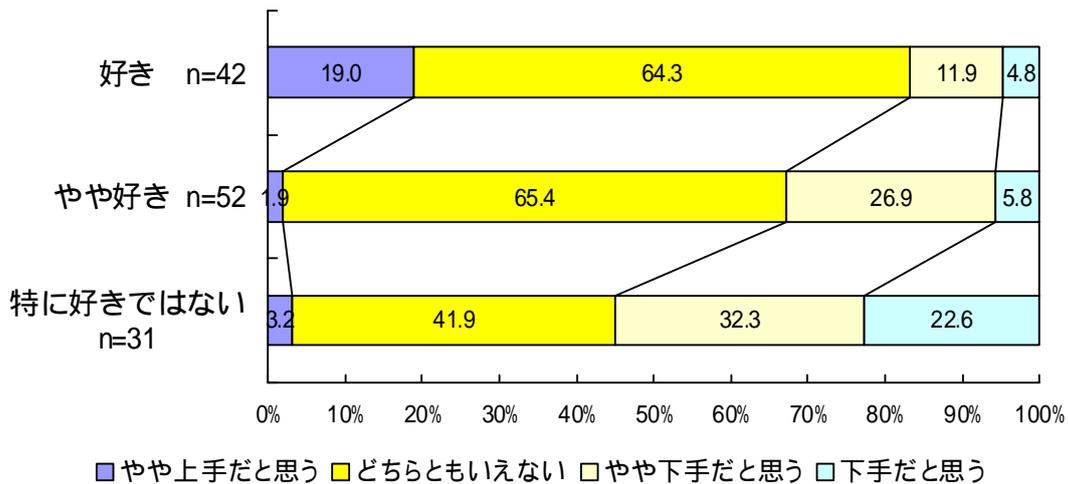
グループ間で差が見られたのは、「g.同性からどう思われているのか気になる」、「a.流行に敏感である」で、「友達」グループは「芸能人・モデル」グループに比べて、「同性からどう思われているか気になる」傾向が強いことが分かった。また、「芸能人・モデル」グループは「b.積極的である」、「a.流行に敏感である」の2項目の数値が高いことが分かる。化粧の影響を「芸能人・モデル」から受けているだけに、テレビや雑誌などメディアに敏感であることが現れた結果である。

2.3 化粧好きの考え方

(1) 化粧好きと化粧の自己評価

「化粧を好んでいる人ほど、自分の化粧技術に自信を持っている」かを集計したのが図2-3-1である。

図2-3-1 化粧好きと化粧技術の自己評価



「化粧が好き」という項目に、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の4段階で回答を求め、「あてはまる」と回答したグループを「好き」グループ、「ややあてはまる」と回答したグループを「やや好き」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」と回答したグループを「特に好きではない」に分類した。

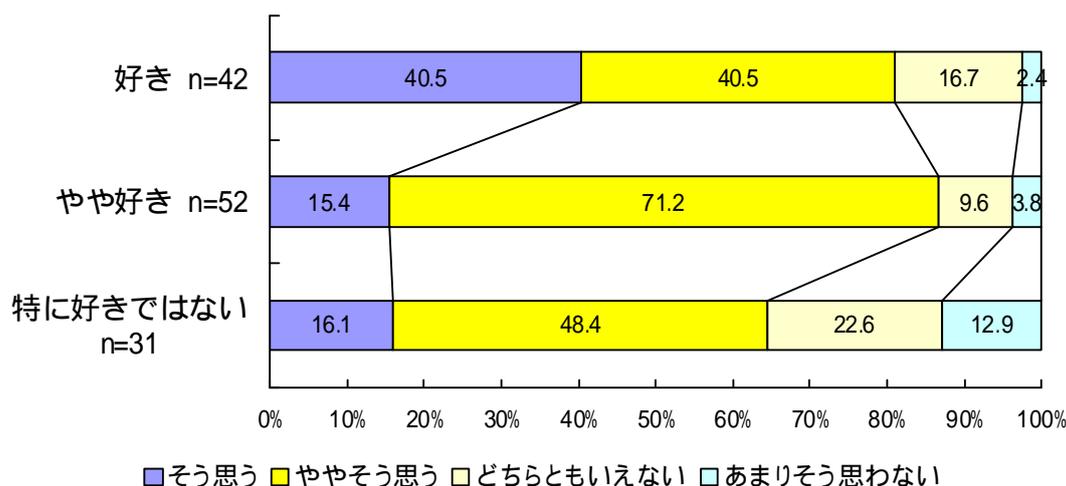
どの層においても、自分の化粧が「上手だと思う」と回答した人は0で、「好き」グループで「やや上手だと思う」と回答したのが19%だった。すべてのグループで「どちらともいえない」の回答が多く、「好き」グループが約64%、「やや好き」グループが約65%、「特に好きではない」グループが約42%という数値が得られた。また、「特に好きではない」グループになるほど、化粧評価が低くなり、「やや下手だと思う」が約32%、「下手だと思う」が約22%だった。いずれにせよ、化粧が好きだからといって、自分の化粧の評価が高くなるわけではないことが分かった。

(2) 化粧好きと自己表現

化粧を好む人がする化粧は、自己を表現するためであるという傾向を示したものが図2-3-2である。

やはり、化粧を好んでいるグループほど、化粧は自己を表現するものだと考えている割合が高いことが分かった。「特に好きではない」グループも数値が6割を超えていることから、グループに関係なく、化粧を自己表現の手段としてとらえていることも分かった。

図 2 - 3 - 2 化粧好きと自己表現



(3) 自己を表現する化粧と化粧の効用

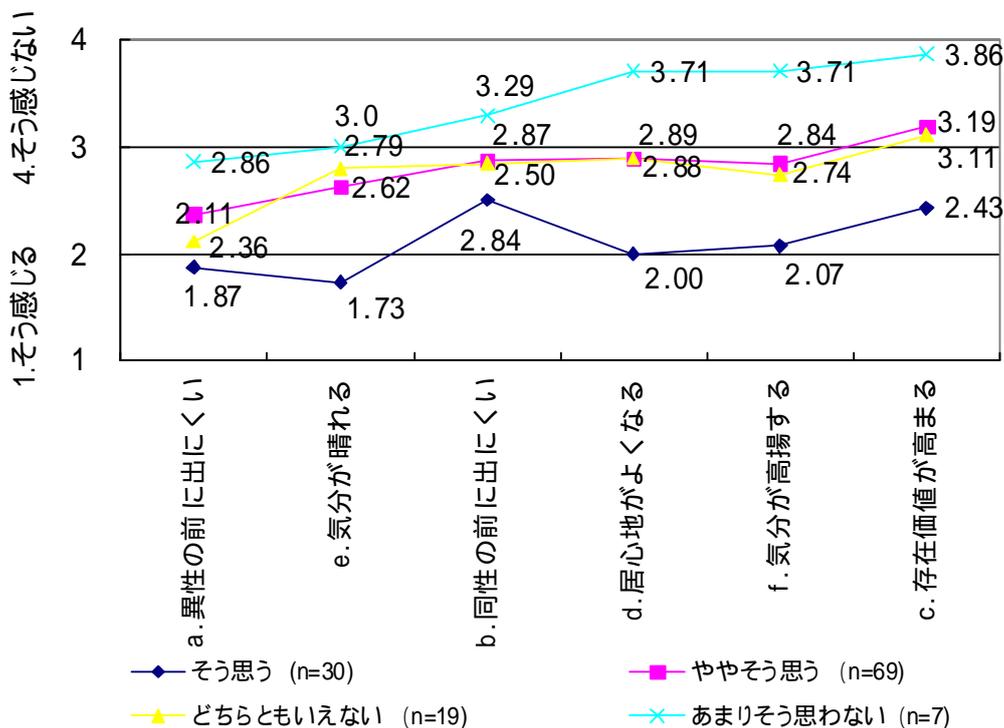
「化粧は自己表現の手段である」と考えている人は、化粧にどのような効用を感じているのだろうか。結果を図 2 - 3 - 3 に示した。

「化粧は自己表現の手段である」の間に対して、「そう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の5段階で回答してもらった。また、「あまりそう思わない」と「そう思わない」は、回答数が少なかったため、「あまりそう思わない」の、1つのグループにまとめた。

全体的に、化粧を自己表現の手段だと感じている、「そう思う」グループほど、化粧の効用を感じやすく、最も顕著な差が見られたのは「e.気分が晴れる」で、続いて「d.居心地がよくなる」であった。

図 2 - 2 - 2 と図 2 - 2 - 3 で、「異性よりも同性にどう思われているか気になる」という結果が出た。しかし、今回の図 2 - 3 - 3 では、「化粧をしないと異性の前に出にくい」、「化粧をしないと同性の前に出にくい」と感じるかについて、「異性の前に出にくい」と感じている割合のほうが高いことが分かった。よって、「同性・異性にどう思われているか気になる」と、化粧する際に意識する対象が一致しているわけではないことが分かる。

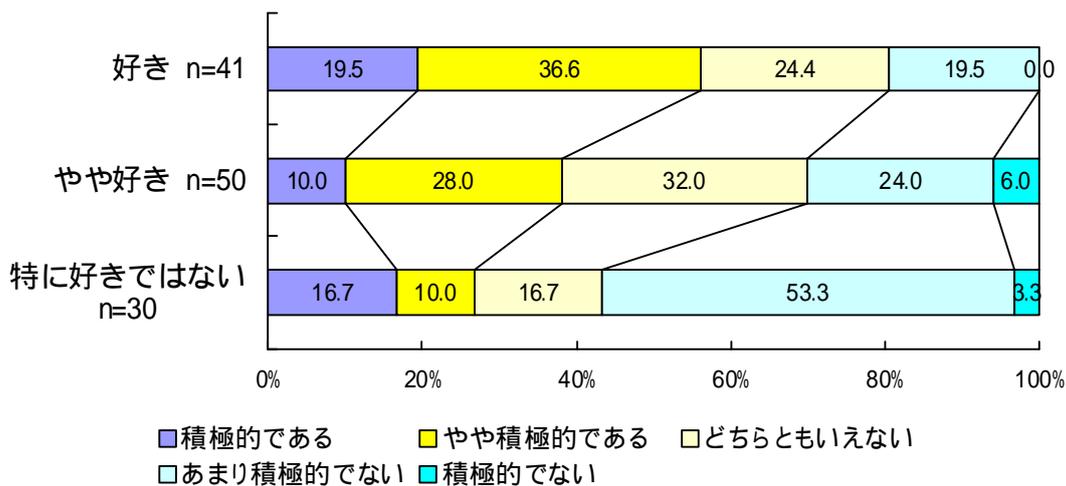
図 2 - 3 - 3 自己表現の化粧と化粧の効用



(4) 化粧好きと性格

化粧が好きの人に特徴的な性格はあるのか。化粧好きと積極的な性格に関連があるのかを集計したのが、図 2 - 3 - 4 である。

図 2 - 3 - 4 化粧好きと積極性



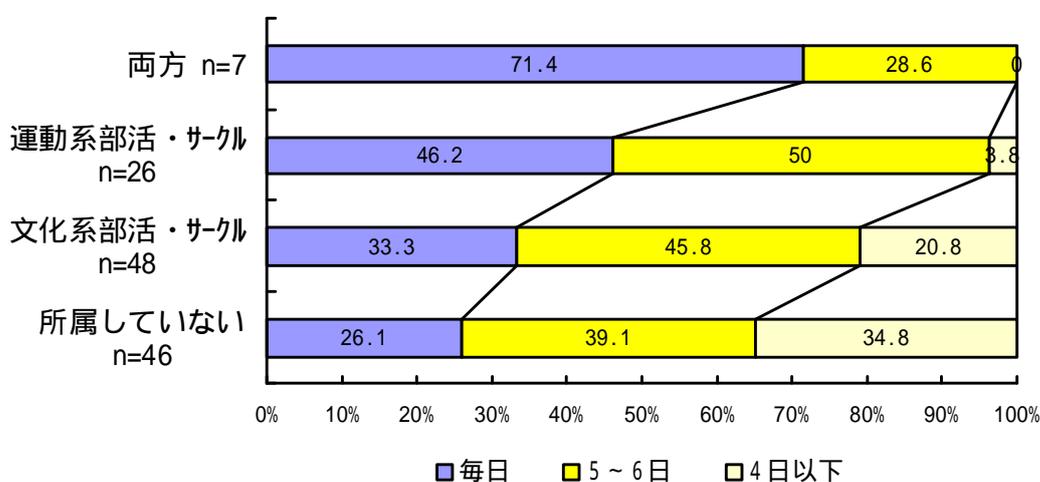
化粧が「好き」グループが自分の性格を「積極的である」と感じている割合が、「積極的である」、「やや積極的である」の回答を合わせて約 56%、「やや好き」グループが 38%、

「特に好きではない」グループが約27%で、「あまり積極的でない」、「積極的でない」と回答したのが約57%の半数以上となった。この数値から、化粧品を好んでしている人ほど、性格が積極的なことが分かった。

(5) 部活・サークル活動者と化粧頻度

部活・サークル活動者や、アルバイトをしているか、していないかで化粧の頻度がどう違ってくるのか。結果が図2-3-5である。

図2-3-5 部活・サークルと化粧頻度(2乗:p=0.023)



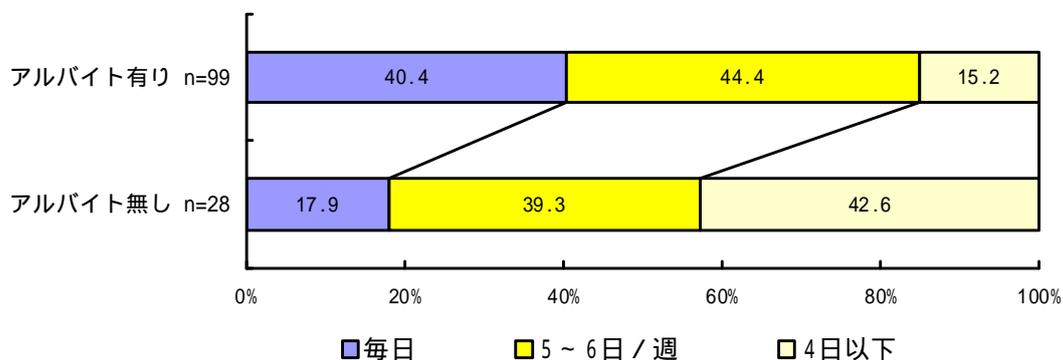
図から、「両方」(運動系と文化系の両方の部活かサークルに所属)の場合、人数は少ないが、「毎日」化粧する人は約71%、「5~6日」化粧する人は29%である。次いで「運動系の部活またはサークル」に所属している人が、「毎日」化粧する割合は約46%、「5~6日」が約50%、「4日以下」が約4%、次いで「文化系部活・サークル」、「所属していない」の順に、化粧頻度が低下している。この順は、大方は活動の多さと一致しており、部活・サークルでの活動の多さが化粧の頻度と密接に関係していることが分かる。

(6) アルバイトと化粧頻度

次に、アルバイトと化粧頻度にはどのような関係があるのか。結果が図2-3-6である。

図から、化粧を「アルバイト有り」のグループは「毎日」化粧をしているのが40%、「5~6日/週」が44%、「4日以下」が15%である。これに対して「アルバイト無し」

図2 - 3 - 6 アルバイトと化粧頻度(2乗:p=0.004)



のグループは「毎日」が18%、「5~6日/週」が39%、「4日以下」が43%である。アルバイトをしているグループは、有意に化粧頻度が高い。

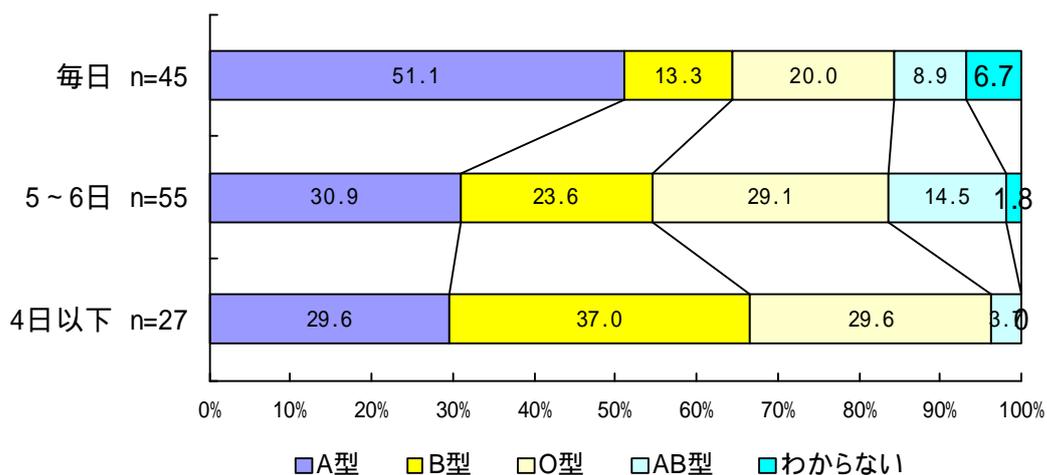
図2 - 3 - 5と図2 - 3 - 6の結果を見ると、部活やサークル、アルバイトなど、人と接する機会が多い人ほど、化粧頻度が高くなることが分かる。

(7) 血液型と化粧頻度

血液型と化粧頻度についての関連を集計したのが図2 - 3 - 7である。

図から、A型は「毎日」が多く約51%とマメに化粧をする傾向があり、B型とO型は

図2 - 3 - 7 化粧頻度と血液型

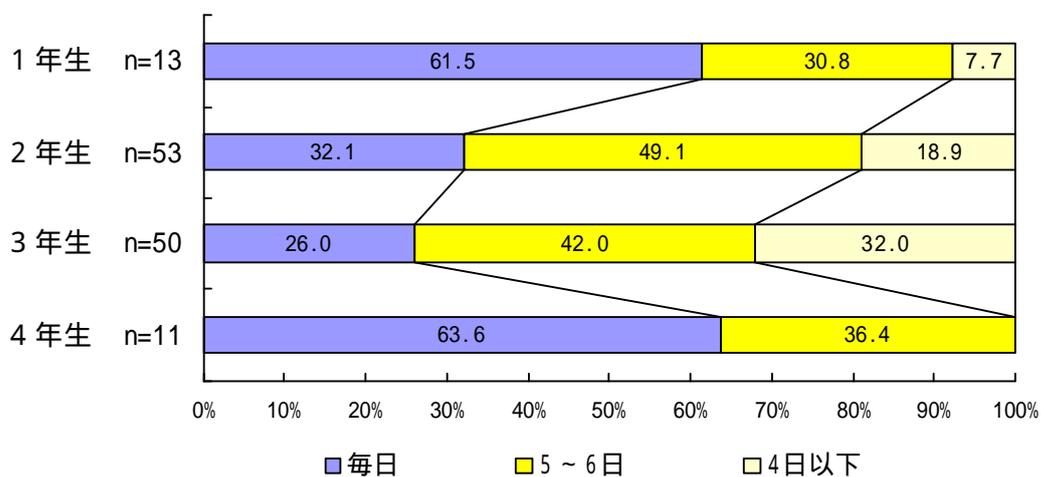


「4日以下」が最も多く37%、AB型は「5~6日」が多く、約14%だった。

(8) 学年と化粧頻度

学年と化粧頻度についての集計結果は図 2 - 3 - 8 である。

図 2 - 3 - 8 化粧頻度と学年



図から、1年生が約61%、4年生が約64%と「毎日」化粧する傾向が強いことが分かった。2年生と3年生は「5~6日」が多く、2年生が約49%、3年生が42%となった。学年が上がるほど化粧頻度も高くなると予想したが、4年生と同等に1年生も化粧頻度が高いことが分かった。

第3章 まとめと今後の課題

調査から、女子学生の全体の9割以上が何らかの化粧をしていることが分かった。化粧頻度別の化粧する理由については、「化粧が好き」、「美しくなりたい」、「かわいくなりたい」と化粧頻度が高いグループほど感じており、「身だしなみ」に関しては、化粧頻度に関係なく、化粧する理由として強く感じられていることが分かった。このことから、「化粧」は趣味や効用を得るためとは別に、義務的な一面も含んでおり、社会的な行動であることが分かった。

化粧の重要性についても、8割以上の学生が感じており、また同時に、「化粧は自己満足である」とも7割以上が感じている。つまり、学生は、化粧は気分を良くするためであったり、コンプレックスを隠すためであったり人に見せるためではなく「自分のため」、自己満足のためにするといった感覚があるのと同時に、人から見られる自分を意識しての「身だしなみ」という観点からも化粧を施す、矛盾した点も持っていることが分かる。

化粧の仕方については、化粧頻度別、化粧の影響別、異性意識・同性意識の化粧別にみても、マスカラやアイシャドウ、アイラインなどを十分にする傾向があり、目に重点をおいた化粧をすることが分かった。若者の化粧の流行的にも、目を大きく見せることが望ましいとする風潮ゆえの結果であるといえる。

化粧の影響を「友達」から受けているグループは、化粧する理由に「身だしなみ」、「自信をつけたい」、「気分を明るくしたい」、「人並みでありたい」、「コンプレックスがある」を強く感じており、自分の容姿の評価も低く、同性からどう思われているか気になる傾向も強いことが分かった。やはり、友達から化粧の影響を受けていることもあり、同性の目を気にしたり、友達についていくため、友達の中で浮いた存在にならないために化粧をすることも考えられる。

化粧が好きな人には積極的な人が多いことも分かった。また、化粧頻度には部活・サークル、アルバイトにも密接に関係があることも証明できた。性格が積極的ゆえに、部活・サークル、アルバイトでの人間関係が活発であり、人と多く接する人ほど化粧頻度が高いことが考えられる。

今後の課題としては、今回の調査では女性のみアンケートを行い集計したが、次回は男性にもアンケート調査を行い、男性が女性の化粧についてどのような考えを持っているのかを調査し、それによって、女性が考える化粧と男性が考える化粧の違いについて検証してみたい。また、化粧と人間関係にも何らかの関連があることが分かったので、ストレ

スなど人間関係に係る設問を増やして詳しく調査したい。

参考文献

石田かおり：「化粧と人間・規格化された身体からの脱出」法政大学出版局 2009年1月

米澤 泉：電車の中で化粧する女たち コスメフリークという「オタク」

ベストセラーズシリーズ 2006年1月

米澤 泉：コスメの時代 「私遊び」の現代文化論 勁草書房 2008年12月

谷本 奈穂：「美容整形と化粧の社会学」新曜社 2008年7月

陶 智子：「不美人論」平凡社新書 2002年5月

女性と化粧の調査 単純集計表

2009.10

情報学部広報学科 ハツ橋ゼミ 櫻村 紗和

卒業研究のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問1. あなたは週に何日ぐらい化粧をしますか。(1つに) n = 132

1. 毎日	34.8	2. 2.5~6日	42.4	3. 3.3~4日	11.4	4. 4.1~2日	5.3
5. 全くしない	問12へ	5.3	無回答	0.8			

化粧をすると回答した方に質問です。

問2. 普段、化粧にかかる時間はどのくらいですか。(1つに) n = 125

1. 15分未満	28.8	2. 15分~30分未満	57.6	3. 30分~45分未満	11.2
4. 45分~1時間未満	0.8	5. 1時間以上	0.8	無回答	0.8

問3. あなたの化粧についてお答えください。(はそれぞれの項目に1つ) n = 125

	十分に する	ややする	あまりしない	全くしない	無回答
A. 日焼け止め・下地	50.4	28.8	11.2	8.8	0.8
B. ファンデーション	50.4	36.8	7.2	5.6	0.0
C. 頬紅(チーク)	32.8	44.0	7.2	16.0	0.0
D. 口紅・グロス	5.6	24.8	41.6	28.0	0.0
E. アイブロウ(眉)	42.4	33.6	9.6	14.4	0.0
F. アイシャドウ	41.6	44.0	9.6	4.0	0.8
G. アイライン	48.0	28.0	13.6	10.4	0.0
H. マスカラ	50.4	28.8	16.0	4.8	0.0
I. つけまつげ	11.2	5.6	14.4	68.8	0.0

問4. その日会う人や服装、気分によって化粧の仕方を変えることが多いですか。

(1つに) n = 125

1. 変えることが多い	19.2	2. やや変えることが多い	38.4	3. あまり変えない	32.8
4. 変えない	8.8	無回答	0.8		

問5. あなたの現在の化粧に最も影響を与えている人は誰ですか。(1つに) n = 125

1. 親	4.0	2. 姉妹	1.6	3. 友達	24.0	4. 芸能人・モデル	24.0
5. 化粧品販売員	3.2	6. その他	1.6	7. 特にいない	41.6		

問6. 1カ月にかけている化粧品代はいくらですか。(1つに) n = 125

1. 千円未満	30.4	2. 千円~3千円未満	52.8	3. 3千円~5千円未満	12.8
4. 5千円~8千円未満	2.4	5. 8千円~1万円未満	1.6	6. 1万円以上	0.0

問7. あなたのよく読む雑誌はなんですか。(当てはまる番号すべてに) n = 125

1. nonno・mina	40.4	2. SEDA・PS・mini・JILLE・soup	37.0
3. CUTiE・Zipper・KERA	15.2	4. Spring・Sweet	10.4
5. CanCan・Ray・PINKY・ViVi・JJ	22.4	6. 小悪魔 ageha・popteen	5.6
7. NYLON・high fashion・GLAMOROUS	3.2	8. 美的・bea's up・VOCE・MAQUIA	1.6
9. その他	12.0	10. 読まない	15.2

問8. mixi などのコミュニティや、インターネットのウェブサイトなどから化粧に関する情報を得ていますか。(1つに) n = 125

1. 頻繁に得る	8.0	2. どちらかといえば得る	24.0	3. あまり得ない	43.2
4. 得ない	24.0	無回答	0.8		

問9. 化粧をする理由についてお答えください。(それぞれの項目で1つに) n = 125

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A. 化粧が好き	33.6	41.6	16.8	8.0	0.0
B. 美しくなりたい	47.2	43.2	4.8	4.8	0.0
C. 可愛くなりたい	54.4	37.6	4.0	4.0	0.0
D. 目立ちたい	5.6	20.8	50.4	23.2	0.0
E. 人並みでありたい	40.0	44.8	6.4	8.8	0.0
F. コンプレックスがある	41.6	30.4	17.6	8.8	1.6
G. 自信をつけたい	36.0	40.0	17.6	6.4	0.0
H. 気分が明るくなる	44.8	39.2	11.2	4.8	0.0
I. 身だしなみ	57.6	40.8	0.8	0.8	0.0

問10. 化粧に対する感じ方について、下の項目毎にお答えください。

(それぞれの項目で1つに) n = 125

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
A. 化粧をしないと異性の前に出にくい	34.4	34.4	12.8	10.4	8.0
B. 化粧をしないと同性の前に出にくい	12.8	37.6	19.2	17.6	12.8
C. 化粧をすると、自分の存在価値が高まる	4.8	27.2	39.2	17.6	11.2
D. 化粧をすると、居心地がよくなる	16.8	30.4	28.0	13.6	11.2
E. 化粧をすると、気分が晴れる	21.6	37.6	23.2	8.8	8.8
F. 化粧をすると、気分が高揚する	16.8	31.2	28.8	12.8	10.4

問 11. あなたは周りと比べて自分の化粧をどう思いますか。(1つに) n = 125

1.上手だと思う	0.0	2.やや上手だと思う	8.0	3.どちらともいえない	59.2
4.やや下手と思う	23.2	5.下手だと思う	9.6		

ここからは、全員に回答をお願いします。

問 12. あなたにとって、化粧は重要なものですか。(1つに) n = 132

1.重要である	31.1	2.やや重要である	50.8	3.あまり重要ではない	13.6
4.重要ではない	3.8	無回答	0.8		

問 13. 自分自身の容姿について、周りの人と比べてどう感じますか。(1つに) n = 132

1.優れていると思う	0.0	2.やや優れていると思う	4.5	3.同じくらいだと思う	41.7
4.やや劣っていると思う	29.5	5.劣っていると思う	22.7	無回答	1.5

問 14. 人の見た目は重要だと思いますか。(1つに) n = 132

1.重要	42.4	2.やや重要	42.4	3.どちらともいえない	12.9	4.あまり重要でない	2.3
5.重要でない	0.0						

問 15. 美容整形をしてみたいと思いますか。(1つに) n = 132

1.してみたい	15.9	2.ややしてみたい	21.2	3.あまりしたくない	18.2
4.したくない	42.4	無回答	2.3		

問 16. 化粧に関する以下の項目についてどう感じますか。

(それぞれの項目で当てはまるものに)

n = 132

	そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	そう思わな い
A.化粧は、異性によく見られる ためにするものである	18.2	37.1	25.0	13.6	6.1
B.化粧は、同性によく見られる ためにするものである	15.9	36.4	25.8	12.9	9.1
C.化粧は、自分を表現するた め手段である	23.5	54.5	14.4	7.6	0.0
D.化粧は、社会的にしなければ ならない義務的な面がある	27.3	49.2	15.9	3.8	3.8
E.化粧は、自己満足である	43.2	28.0	19.7	6.8	2.3

問 17. あなたの性格についてお答えください。(それぞれの項目で当てはまるものに) n = 132

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A. 流行に敏感である	5.3	31.8	27.3	20.5	12.1	3.0
B. 積極的である	13.6	26.5	25.8	27.3	3.8	3.0
C. 心配性である	33.3	35.6	16.7	9.1	2.3	3.0
D. 面倒くさがりである	55.3	32.6	6.1	3.0	0.0	3.0
E. 頼みごとを断れない	23.5	34.8	17.4	15.2	6.1	3.0
F. 異性からどう思われているか気になる	9.8	40.9	34.8	7.6	3.8	3.0
G. 同性からどう思われているか気になる	28.0	41.7	19.7	4.5	3.0	3.0

問 18. あなたは世の中では、競争社会の傾向が強まっていると思いますか。(1つに) n = 132

1. 強まっている	26.5	2. やや強まっている	39.4	3. どちらともいえない	25.8
4. あまり強まっていない	3.8	5. 強まっていない	1.5	無回答	3.0

問 19. あなたは、競争社会に対応しながら生きていきたいと思いますか。(1つに) n = 132

1. 思う	14.4	2. やや思う	25.8	3. どちらともいえない	28.0
4. あまり思わない	23.5	5. 思わない	4.5	無回答	3.8

問 20. 現在、部活またはサークルに所属していますか。(1つに) n = 132

1. 文化系の部活またはサークル	37.1	2. 運動系の部活またはサークル	19.7		
3. 両方	5.3	4. 所属していない	34.8	無回答	3.0

問 21. 現在、アルバイトをしていますか。(1つに) n = 132

1. している	75.8	2. していない	21.2	無回答	3.0
---------	------	----------	------	-----	-----

問 22. 現在、付き合っている人はいますか。(1つに) n = 132

1. いる	30.3	2. いない	66.7	無回答	3.0
-------	------	--------	------	-----	-----

問 23. 血液型を教えてください。(1つに) n = 132

1. A型	37.1	2. B型	22.0	3. O型	25.0	4. AB型	9.8
5. 分からない	3.0	無回答	3.0				

問 24. 学年を教えてください。(1つに) n = 132

1. 1年生	9.8	2. 2年生	40.9	3. 3年生	37.9	4. 4年生	8.3	無回答	3.0
--------	-----	--------	------	--------	------	--------	-----	-----	-----

調査は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。